

## 三陸の海を放射能から守る

岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

ホームページ 《再処理/岩手の環境》

<http://sanriku.my.coocan.jp/>

《本紙の全バックナンバー掲載》

# 止めよう! 《再処理》

## 《天恵の海》

2019(令和元)年

11月12日

第200号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

## もしも！ 高レベル放射性廃液タンクや 使用済み核燃料プール建屋を直撃したら！ 列島規模の大災害！

六ヶ所再処理工場は  
広島原爆死の灰の  
約五八〇〇倍の  
(セシウム137で比較)  
放射エネルギーの  
高レベル放射性廃液が  
溜まっている

\*国連科学委員会 2000年報告(広島原爆)と、政府答弁書(2013.2 六ヶ所再処理工場の廃液量)で比較



十一月六日午後六時半ころ米軍三沢基地のF16戦闘機が三沢対地射撃場で訓練中、同射撃場の西方五キロの民有地に二三〇キログラムの模擬爆弾(火薬なし)を誤投下した。怪我人などはなかったが、六ヶ所再処理工場が近接しており、万が一、高レベル放射性廃液タンクや使用済み核燃料プールに被害を与えると、想像を絶する大事故になり得る。再処理工場が近く、重大事故の危険があることについて、政府も青森県も言及せず、マスコミ各社も全く無視している。私達はこの様な現実を見つめ、米軍と国に対して断固として抗議する。

三沢射撃場 (旧日本海軍天ヶ森射撃場)  
米軍F16戦闘機 模擬爆弾 誤投下  
再処理工場の近接地点に二三〇キログラムの弾

# 福島原発事故で拡散した放射能が 大型台風豪雨で再拡散



左写真 氾濫によって上流から運ばれて来た土壌。福島原発事故時に山野に降り注ぎ、表土に固定されたセシウム134, 137などの放射性粒子が混じっている可能性がある。乾いてホコリとなって舞い上がると吸い込み易く、危険。

右写真 表層部の数センチの柔らかい部分が、氾濫により運ばれた土壌。本来は肥沃で有効な土。



福島原発事故で放出された放射性セシウムによる土壌汚染の状況

『みんなのデータサイト』 ホームページより  
<https://minnanods.net/blog/news/entry-1423.html>

この秋の台風は大変な被害を残し、被害を受けた人々には水をかぶった自宅や職場の汚泥にまみれた器財の清掃に難渋しています。更に事態を深刻にしているのは、福島原発事故の時飛散した放射性物質で汚染された野山の土壌の豪雨による流出であり、除染物を収納しているフレコンバックからの再流出です。原発事故時の放射能は福島のみならず、関東、中部・東北地方の山野や田畑、町や村に降下し、土壌に固着し残りました。今回の豪雨の被害地域と重なります。セシウム137の半減期は約三〇年。千分の一に減るのは三百年後。今後長く、警戒を続けなければなりません。国・県は早急に調査し対策を講じて、これ以上の健康被害を防ぐべきです。

汚泥除去作業は放射能微粒子を  
吸い込まないよう注意を！  
舞い上がるホコリにはマスクを！  
特に子どもは注意を！

(前頁から続く)  
**政府は汚染の実態と  
危険予防策を示せ!**

各地から警戒せよ

のま

◇東京新聞十月二三日

台風一九号の大雨で福島県田村市などでフレコンバックが流出。日本大学系長浩司特任教授は「フレコンバック八六〇万袋に相当する山の表土も流出し始めた。この実態調査と対策が重要」と指摘しました。

◇共同通信十月二八日

台風一九号により福島県内で放射能汚染土などを入れたフレコンバックが流出あるいは紛失したものは六六袋あると確認された。うち中味のないものが二三袋あった。

◇米國・FAIRREWIN  
ND マギー・ガンダーセン  
さん(アーニー氏夫人)

台風ハギビス(一九号のこと)襲来で被害を受けた日本人々にお見舞い申し上げます。・福島島の三基の原発がメルトダウンし放射性降下物が日本中に拡散しました。台風によって都市や町、農地へと移動しています。

日本政府はこれを無視しようとしており、JAEAや原子力産業はこの健康リスクについて当局に伝えていない模様です。

◇「広島原爆四五個分の死の灰」が流れ出した

内部被ばく防止に取り組み渡辺悦司さんによれば、福島原発から放出された放射性物質は、セシウム137をベースとする日本政府の放出量推計(広島原爆の一六八個分)と、全放出量のうち日本陸土に落ちた割合の日本学術会議の推計(二七%)から計算すると、

およそ広島原爆約四五五分の回収を差し引いても約四〇発分もの放射能を含む汚染土壌が、川底やダム底、山岳部・森林地帯から洪水で拡散し海へと流れ込んでいると考えられます。日本政府行政当局は豪雨による放射能の危険性を明確に示すべきです。

◇みんなのテータサイト

(十月二三日)

「台風一九号による、粉塵について」ご注意をお知らせするべきか悩みました。今回の台風一九号による河川などの氾

濫水が運んでくる泥の濁質粒子には高濃度の放射能を含有している可能性が浸水した家屋の泥出し、清掃の際、特に泥が乾いてしまったあとには吸い込まないようご留意ください。乾いた泥はすさまじい粉じんとなります。マスクやゴーグルをして内部被ばくを出来るだけ避けてください。

「水害被災地 土壌放射能調査を開始」

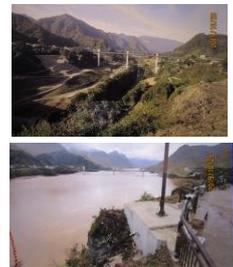
原発被災地東部一七都道県の土壌汚染マップを作りあげ公開している「みんなのテータサイト」は一九号台風被災以降の十月二二日に、緊急の氾濫土壌調査を呼びかけました。

測定希望者はHP掲載の事前説明と調査野帳を読んで応募してほしいとしています。

**台風19号による氾濫泥の放射能緊急調査 応募データ測定結果速報値 NO1(10/24) ~NO5(11/7)**  
(次のURLに公表)  
<https://minnanods.net/blog/news/entry-1424.html>



[自然野菜のら]10/13 : Uチューブ動画を撮影



一夜で満杯のハツ場ダム

Siphon TV 10/16 レポート画面を撮影

日本列島周辺の海水温度が高く  
大型台風が来襲  
丈夫な堤防や遊水池、  
命を守る避難計画を!

「観測史上最多」の大豪雨をもたらした超大型台風一九号通過時の連続した降雨により多大な被害がもたらされました。この大被害から何を教訓として未来に備えるべきか、「利根川水系と首都圏ハザード」の問題を考えてみました。

利根川も増水した  
インターネットで、千葉県柏市付近の利根川の増水のニュースを、この付近の農業者がUチューブで報じていました。「自分の田んぼや畑が冠水した。利根川が堤防越

え寸前であった」と述べています。上左の写真の様に、利根川の水位が堤防を隔てて田んぼと同じになっていきます。但しこの地点は「一種の遊水池」で、十年に一度くらいは増水時に冠水することを前提にした水田とのこと。その代わり泥水は肥沃な土壌をもたらす利点もあると言います。しかし一八年ぶりという今回の増水は非常に急速でもとても驚いたとのこと。

完成間際のダムが一夜で満杯になった!

左図の二つの写真は国会でも議論された群馬県、利根川支流のハツ場ダムの写真です。ダムの堤からダム湖側を撮った写真で、上は「湛水開始の十月一日」、下は「一九号台風一過の一三日朝」です。ほとんどカラだったのに一夜で満杯になりました。ダムのある吾妻川は利根川の大小百余の支流の一つですが、他の支流でも同じならその雨量は想像以上です。湛水試験中で、堰堤や岩盤などの強度を点検するヒマもなく満タンになったのは、実は危険なことでした。

江戸時代の治水政策に学ぶ

今回の大増水は東の太平洋に注ぐ利根川水系に多くの被害を出しました。江戸時代に江戸湾方面ではなく、出来るだけ東の銚子方面に流す河川ルートに改良する「利根川東遷事業」のお陰で東京下町は今回は無事でした。洪水のときに越水しても所定の水田を遊水地とし被害を最小にしようとして、上流には広葉樹を植林し保水力を高め土砂災害に備えました。江戸時代以来の治山治水の知恵に学ぶべきです。(尚)